

日時 平成 28 年 12 月 15 日 (木)

午後 7 時～8 時 30 分

会場 同窓会館 1F 会議室

出席者

(協議会委員) 岡澤潤次様 井関義彦様 笹倉千里様 堤珠美様 古川広宣様

(学校事務局) 准校長 教頭 主査 首席 記録

<次第>

1 開会挨拶、准校長挨拶

2 協議 (岡澤様が議長として進行)

(1) 本校の現状について (熊本首席より)

- ・今年度の取り組みの中間報告

1. 農園を活用した取り組み

いちご狩りでは、8 団体 416 名、芋掘りでは 5 団体 337 名の方が参加するなど、農園を地域連携に活用できている。ボランティア生徒も 2 年前から倍以上に増え、生徒にとっても地域の方と関わる良い機会となっている。農園での地域連携の様子は、フリーペーパーマガジンに掲載された。

2. PTA 行事について

主要のものが 5 つあり、現在では 4 つが終了した。藤工フェスティバルでは、中国の先生に指導してもらい作った獅子頭スープを販売した。味が良く盛況であった。PTA 行事のこんにゃく作りでは、17 名の参加者があり、大盛況だった。

3. 支援学校との交流及び共同学習

「共に学び、ともに育つ」インクルーシブ教育の大切さを学ぶ機会として設けている。支援学校からの参加者は昨年度 8 名だったところ、今年は 14 名の生徒が参加した。本校からは、ボランティア生徒 12 名が参加した。食堂体験学習、自動車工場見学、タイヤ交換、自動車整備実習、芋掘り体験、万願寺とうがらしの収穫と充実した内容で行い、支援学校の生徒もボランティア生徒も大喜びであった。

4. 地域連携による相互交流

生徒からの希望によって始まったもので、保育園に職業体験をさせていただく内容である。今年はラミー保育園に 3 名、カトリック幼稚園に 3 名が参加した。

5. 生徒向け講演会

現在 26% である中退率を、4 年後には 11.4% に下げることが目的に行われている。中退防止コーディネーターを 4 名配置、スクールソーシャルワーカー活用事業などを行っている。9 月 23 日には 1 年生を対象に、特別非常勤講師に講演していただき、生徒にとって大きな学びとなった。

## 6. 不登校生徒への支援モデル授業

職員向けに、不登校対応研修と、不登校予備軍の生徒に対してのコンサルテーションが行われた。

## 7. 公開講座

陶芸、バーナーワーク、パソコンの3講座が行われている。バーナーワークは、卒業生がマンツーマンで指導を行っており、パソコンでは、若手の教員が中心に教えている。去年度は14名の参加希望者であったが、今年度は44名と大盛況のため、抽選を行い参加できない方もいた。

## 8. 生徒秋季発表大会

生活体験発表では奨励賞を、美術工芸の部では、陶芸の作品が教育委員会賞を受賞した。

### ・本校の課題

ICT活用授業作りと中学校卒業生数急減期に向けた対策を行う必要がある。熊本首席は、生徒の人数を増やすことと並行して、学校の力をつけていき、存在価値を高めることが大切だと考えている。また、発想の転換を行い、定時制の魅力の打ち出し、強みを活かすことが大切であると考えている。

### ・授業アンケート 結果について (松山教頭より)

6月に実施した生徒授業アンケートの結果の説明を行った。質問は全部で9項目あり、6つの項目が増加し、1つの項目が減少した。松山教頭は、授業見学のなかで、教員が丁寧に指導し、生徒を励ましながらい指導している場面をたくさん見掛けたと発言していた。

### 協議会委員より意見

- ・生徒がわかっていないという先生が多い中、教員が生徒にあわせていかないといけない。
- ・クラブ活動に生きがいを持っている教員は教育庁から「ノークラブデイ」「定時退庁」等の指示がでてきているため、意識の変革が必要である。
- ・働くということの見直しが必要である。アルバイトから正規雇用への意識の変革が大切である。
- ・働く場所はあるが働いていないものが多い。教師が働くという意義を伝えていかなければならない。
- ・個人が自己責任でコンプライアンスにかからないようにする。個人への負担が大きい。
- ・就職をするときに、企業に入ってからでないとわからないことが多い。
- ・日本人の勤勉さに頼った長時間労働生産から、コストパフォーマンス向上型労働という時代のニーズに合った考えをもたないといけない。
- ・家庭環境での変化が大きく、学校が対応する役割は大きい。

### ・大阪府定時制高校合同相談会 (松山教頭より)

今年度は2月5日に桃谷高等学校で行われる。桃谷高校の通信課程を目的に来る生徒が多いので、そこで定時制の情報を提供し、定時制のことを知ってもらう機会として3年続けている。定時制の現状を知らないため、定時制を受験しない生徒が多いので、残念である。少しでも定時制への進学につながるように、中学校訪問の際に合同相談会があることも宣伝している。定時制通信制の現状が正しく知られていないということは、今後も向き合っていかなければならない問題である。

## 3 閉会挨拶 (准校長)